

北村兼子 ジャーナリスト。男子と対等に闘おうと挑戦、自ら操縦して訪欧飛行すべく決行準備中に病没した。

きたむらかねこ

日比谷公園・1903 = 大阪市北区天満で、漢学者北村佳逸の長女に生まれる。母は勝野。

日露戦争始・1904 = 1歳：この年、父を校長に母が経営する財団法人大阪洋服学校が認可される。

日露戦争終・1905 = 2歳：

父や京都の幕臣与力で維新後も漢籍を教授し多くの人材を輩出した祖父龍象の薫陶を受けて育つ。

伊藤博文暗殺1909 = 6歳：妹春代が誕生。天満周辺が大火となり、北区上福島に転居。

韓国併合・・・1910 = 7歳：中之島尋常小学校に入学。

明治天皇没・1912 = 9歳：

民本主義・・・1916 = 13歳：卒業し、大阪府立梅田(大手前)高等女学校に入学。

この間、良妻賢母型教育を徹底的に批判するようになって、

大正11年条約・1919 = 16歳：弟正勝が誕生。

大暴落・・・1920 = 17歳：卒業。

原敬首相暗殺1921 = 18歳：

水平社結成・1922 = 19歳：官立大阪外国語学校別科英語科に入学の一方、男子と対等に戦うべく、

関東大震災・1923 = 20歳：関西大学夏期語学講習会に参加し、聴講生として女子初の法学部ドイツ法律科入学を許可され、

護憲三派圧勝1924 = 21歳：この年、北村家住居兼大阪洋服学校建築許可。外国語学校別科英語科修了。*関西大学第一学年試験及第。

大阪朝日新聞に論文「爆弾事件と法の適用」が掲載される。高等試験司法科に出願するも女子ゆえ不可。

治安維持法・1925 = 22歳：全関西婦人聯合機関誌雑誌(婦人)に「法律を学ぶ私」が掲載される。在学のまま朝日新聞社会部記者に採用

され、記者としてだけでなく、八面六臂の活動しながら、執筆し続け、

円本時代始・1926 = 23歳：*初の著書「ひげ」に続いて「短い演説の草案及北村兼子演説集」「竿頭の蛇」「恋の潜航」を出版、一躍花形に。

金融恐慌・・・1927 = 24歳：「怪貞操」。赤新聞によるデッチ上げの性的暴露記事激しくなるなか、退社し、民政党の依頼で普通選挙に

応援演説し、(新愛知)に傑作「議会観戦記」を連載、

共産党事件・1928 = 25歳：「婦人記者廃業記」「私の政治観」を出版。ホノルルで開かれた汎太平洋婦人会議に政治部委員として出席。

世界恐慌・・・1929 = 26歳：「女浪人行進曲」「情熱的論理」。*ベルリンの万国婦人参政権大会に出席、欧米諸国回って帰国、

海軍軍縮条約1930 = 27歳：香港・中国を歴後、「表皮は動く」「新台湾行進曲」「地球一蹴」。この間、飛行機の魅力にとりつかれて、立

川の日本飛行学校に入学、

満州事変・・・1931 = 28歳：*単独飛行が可能になると、飛行士の免許を得、訪欧飛行を決行する予定で準備中、盲腸炎手術のため入院

、腹膜炎を起こして、没した。遺著「大空に飛ぶ」。